

メール: g03063@shugiin.go.jp

自立と共生!

たぐましい日本!

No. 174号

民主党 中川正春の 永田町かわら版

2002年10月11日

〒100-8981 千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館 428号

TEL 03-3508-7128

FAX 03-3508-3428

○元気を出そう市町村合併

市町村の合併議論が、日本のあちこちで、暗礁に乗り上げています。2年ほど前の総論では、どこも元気に合併論議を打ち上げていたのが、いよいよ、法律に基づいた合併協議会の立ち上げという具体論になった段階で、足踏みが始まっています。

政府が、「これまでのように、地方交付税は、手厚く全国津々浦々交付する事は出来なくなっています。」と、ハッキリ表明する事。「地方分権は、本気で進めます。その受け皿となる基礎自治体は、大きければそれだけ権限も財源も自立する方向で移管します。」という意志を具体的な法案で国民に示すこと。この2つの具体的なアクションが今の小泉政権から示されれば、市町村議会で議論している合併後のヴィジョンが、ハッキリ出てくると思うのです。

残念ながら、現在の状況は、エンジンをぶら下げられたまま、それだけを見て走っている自治体論議が多いのです。曰く、「平成17年までに合併すれば400億円。鈴鹿と四日市の大合併であれば800億円、この10年間で国から特別に下りてくる。」

私は、この地域の理想は、関、亀山、鈴鹿、四日市、それに三重郡各町村の大合併。市民の間に、一度にそこまで行くことに迷いがあれば、関、亀山、鈴鹿の合併と、四日市、三重郡の合併とを分けて2つの生活圏から立ち上げる。この12月議会にはそれぞれに法定協議会を作ることを頑張りたいと思っています。協議会の中で、合併後の未来の地域作り議論をすること。これが見えれば、市民も安心できます。

○元気を出そう日本経済

株価が史上最低を更新しています。銀行の保有している株価に換算すれば、全体で5兆円を越える資産の目減りになるから、今回も、銀行が危ないという話になります。

健全化方を復活させて、一挙に解決。一旦は、銀行の国有化で、全体の信頼を取り戻し、その信頼の上に、不良債権の切り離しを思い切ってやる。同時に、「中小企業こそ日本再生の立役者に」というスローガンで、大企業とは違う規準の貸し出し条件、投資減税、特別償却などの政策減税など、ハッキリと焦点を絞った政策を打ち出しています。

ホンダ製作所、鈴木克郎専務。国際市場担当で世界を見つめています。「中川さん。中国は5年で、飽和状態がくる。年率7%以上のGDPの成長で、上海や北京、大連など沿岸部の給与水準が倍になる計算。モノづくりは、日本が、またリードする。」こんな、確信に満ちた話もありました。

○もう、ウンザリ、マツタケ事件

マツタケには、エライメにあいまいした。10日に外務委員会では、北朝鮮の問題で大事な議論も沢山ありました。「北朝鮮の金正日総書記に対する外務省の交渉は、拉致問題や安全保障など日本の前提条件をピシッと踏まえた上で国交正常化の話にはいるべきだ。」「拉致の問題について、金正日が謝ったと言っているのは、日本の関係者だけで、本人から北朝鮮の国民や世界のメディアに直接表明した事は一度もない。金正日の本質はかわっていない。小泉総理は、やたら、功を焦っている。国交正常化交渉を急ぐことはない。」こうした発言をまじめにやっている姿は、テレビに取り上げてくれないのです。

代わりに、アップで取り上げた場面は、余興程度でやったマツタケ。「日本国民の命と引き換えにマツタケの土産を受け取ったとしたら、今回の首脳会談の意味が分かっていない。厳しい外交の本質を理解せずにこれを受け取った責任者は処分すべきだ。」全体45分の質疑で、たった2分のマツタケが、テレビでアップになったお蔭で、「国会では、マツタ

私達は、アメリカが調子が悪くなるたびに、また、時の大臣が一言モノを言うたびに、こんな状況を繰り返すのは、本質的に、不良債権の思い切った処理を怠り、銀行業務そのものの思い切った改革もせずに、やたら合併だけをして「目くらまし」をしてもだめだ。3年前に、私達が主張した、金融再生法と早期

ケしかやっていないのか。」と多くの人が受け取ったのでしよう。翌日、沢山の「お叱り」やら「励まし？」の電話をいただきました。

「何とかならないのか、テレビ」という気持です。

中川正春